

健康ワンポイントアドバイス



発行：十日町市中魚沼郡医師会

発行日：平成31年4月発行

第201号

最近の寄生虫について

田中外科医院 院長 田中 陽一 先生

先ほどナメクジを食べた青年が8年間の闘病生活でついに亡くなったというニュースがありました。広東住血線虫という、普段はネズミに感染するはずの寄生虫に感染したからです。この虫は幼虫の時にはナメクジやカタツムリに寄生して、宿主がネズミに食われるのをじっと待っているのです。パーティで生のナメクジが飲めるかとの会話をきっかけに、ノリで食べたのが決定的だったようです。広東住血線虫に対しての特効薬はなく、対処療法のみになります。結局長い闘病生活の後に命を落とすことになったのです。

そもそも人間と寄生虫は切っても切れない縁があり、弥生時代の遺跡からも虫卵が発見されています。世界で初めての野菜食器用洗剤であるライポンFは寄生虫の蔓延に業を煮やした当時の厚生省が寄生虫を野菜から洗い流すことを目的に開発をメーカー依頼したのが始まりです。先人達の並々ならぬ努力も相まって、ギョウ虫、回虫はほぼ日本からは駆逐されましたが、発展途上国の回虫感染率は4割程との報告もあり、海外旅行時の生野菜や輸入野菜には十分な注意が必要です。また最近の日本の傾向として、その食習慣から寄生虫感染症の中ではアニサキスによるものが最も多いようです。文献的にはアニサキスによる症状らしきものは古くから記載されていましたが、原因となる虫体が発見されたのは1960年代のことです。腹痛を訴える患者さんに緊急手術をしたら胃袋から出てきたそうです。内視鏡の発達で近年は滅多に手術には至りませんが、某大物俳優が緊急手術を受けたことで有名になりました。その他キタキツネを媒介とするエキノコックスは、昔は、北海道限定のものとされていましたが、本州でも感染した動物が発見され、警戒が必要です。感染してから3年から20年かけて発症するのでやっかいです。

元々犬や猫に感染するはずだったのが間違えて人間に感染してしまい、不都合なことを起こす寄生虫も少なくありません。トキソプラズマに感染すると無謀なことも平気で出来るような性格の変化を来すとの報告もあります。他にもマンソン裂頭条虫や猫の回虫など、人間に感染して思わぬ被害を及ぼすものがあります。これらは屋外でカエルやトカゲを食べたり、感染源の近くまで行ったりしてもらってくるのです。犬や猫はできるだけ室内飼いを、散歩の時は余計なものは口にさせないよう心がけましょう。

今も昔も寄生虫は身近な病気なのです。

